

令和5年度(2023年度)学校評価報告書

学校園名	宝塚市立宝塚幼稚園	校長名	佐藤 奈美
------	-----------	-----	-------

1 学校教育目標

豊かな心と健やかな体の子どもの育成 ・力いっぱい遊び元気な子ども ・ 友達と仲良く力をあわせて遊ぶ子ども ・ 自ら考え生き生きと生活できる子ども

2 重点目標

<ul style="list-style-type: none"> 一人一人を生かす楽しい幼稚園づくり 安全で規律ある生活づくり 信頼される幼稚園・魅力ある幼稚園づくり 子育て支援の推進
--

3 学校自己評価結果 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善)

領域	評価の観点及び評価項目	達成状況	学校の取組状況・改善の方策	4 評価項目ごとの学校関係者評価
学校運営	開かれた園づくり	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼稚園の教育や子どもの様子についてホームページや園長だより、ドキュメンテーションなどを使って発信の工夫に努めている。保護者以外からも、「分かりやすい」などの声をいただいている。 ★ 今後も本園の教育に理解を得られるような発信に努めたい。 ○ 図書館や川面神社など、地域の施設に出かける機会を増やすことができています。だんじり曳行など地域の行事にも参加できました。 ★ これからも地域に親しみをもつ機会を大切に設けたい。 	引き続き、きめ細やかな情報発信をしていただきたい。
	子育て支援の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ ボランティア活動では、保護者の方の協力を得て、子どもたちと保護者の方との温かい関わりをもち、経験を広げられている。 ★ 引き続き、保護者の力を活かし保育の充実を図れるようにしたい。 ○ 未就園児親子教室では、1歳児へと対象を広げた。外部の先生も招聘し、親子共に楽しく過ごす姿が見られる。在園児との交流では、子どもと保護者の方の就園の期待にもつながっている。 ★ ホームページなどの発信や保育内容の工夫を行い、幼稚園が子どもにも保護者にとっても安心できる場となるようにしたい。 	ボランティア活動では保護者から「やってよかった」という声が聞かれている。今後も、保護者が楽しく参加できるように配慮してほしい。
	危機管理体制の整備	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 火災、地震、不審者対応と、様々な状況を想定しながら非常時に迅速で適切な行動ができるように定期的な訓練を行っている。また、日々の安全点検を行い、連携をとりながら安全な環境づくりに努めている。 ★ 様々な状況に応じた対応ができるように点検を行い、課題を共通理解する。また、事前に危険を察知し防ぐことができるように、環境の再構成をしたり、子どもと共に確かめたりしたい。 	幼児が家庭でも話題にするなど、訓練を積んでいることが身に付いている。危機管理は、ここまででしたらよいというものではないが、Aをつけてよいと思う。
	教職員の資質向上	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画的に園内研究会を行い、専門の先生を招聘したり、個々が参加した研修会での学びを広めたりして職員間で学び合えた。日頃より職員間で子どもの様子や成長、保育の課題などを話し合っている。日々の保育の中で職員自身も学び、それを保育に活かしている。 ★ 今後も日頃からの教師間の話し合いを大切に、学び続けたい。 	資質向上に努めていると思う。今後も、日々の保育の中で、子どもの姿から学び合ってほしい。
教育課程	幼児期にふさわしい生活の展開	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の子どもたちの実態に合わせた保育のあり方を考え合い、職員間で共通理解し、連携をとりながら保育を進めてきた。子ども同士が学年関係なく、自然と関わり、互いに刺激を受けながら一緒に遊ぶことを楽しみ、成長が感じられる。 ★ 今後も子どもたちの成長や課題を多面的にとらえ、子どもの育ちや興味・関心に合った保育の工夫を行っていけるようにしたい。 	生活発表会の参観などから成長が感じられた。4歳児は友達と一緒に活動することを楽しみ、5歳児は、年長としての自覚をもっている。これからも保育の充実に努めてほしい。

	異校種間の連携	連携の意義や進め方について教師間で話し合い計画的に実施する。連携できる内容を考える。	A	<p>○ 昨年度に引き続き、近隣の保育所（園）・幼稚園や小学校の職員と授業参観や話し合いを行う機会を設けることができた。管理職同士もそれぞれの学校園の子どもたちの様子を参観したり、教育内容などについて伝え合ったりすることができている。</p> <p>また、遊びの交流や給食体験など、子ども同士の交流を行うこともできた。</p> <p>★ 地域の子どもの育ちを共に支えていけるように、継続した取組を行っていきたい。</p>	教職員同士の連携がよくできていると思う。管理職だけではなく、担任の先生同士が行き来できるような関係づくりを引き続き行ってほしい。
課題教育	人権教育	幼児の特性や発達を踏まえた人権意識を育てる。教師自身の人権感覚を磨く。	B	<p>○ 一人一人の気持ちを大切に受け止め、安心して生活できることを第一に保育に取り組んでいる。また、互いの気持ちを伝えたり、理解したりできるよう、見守ったり、機会を見逃さず一緒に考えたり橋渡ししたりして支えている。友達の頑張りやよさをほめたり、困ったことを一緒に解決しようとしたりする姿が見られる。</p> <p>異校種で学び合う「進路保障委員会」では本園の実践を作成、発表し、園内でも継続的に研修を行うことができた。</p> <p>また、今年度は、人権保育の参観を行うこともできた。</p> <p>★ 今後も自分も友達も大切にできる子どもたちに育つように、教師自身が常に自分の保育を見直し、共に学びながら人権感覚を磨いていきたい。また、今後も本園の人権教育の取組を保護者に知ってもらい、共に子どもの育ちを支えられるよう啓発していきたい。</p>	先生たちの笑顔が子どもたちの安心につながっている。これからも、ほめほめデーなどの機会を通して、子どもだけではなく、職員同士も認め合える関係づくりを大切にしていきたい。課題をもちながら取り組まれているので、Aでよいと思う。
	特別支援教育	関係機関と連携を図り、一人一人の発達や課題を明確にしながら、幼児の発達に即した支援内容を工夫する。	B	<p>○ 一人一人の育ちに合った支援ができるように、全職員で連携をとりながら保育を行っている。日々、保育の振り返りを行いながら、保育内容・支援の在り方を考え合い、工夫して取り組んでいる。また、専門の先生方に教えていただく機会を設け、学び合い、保育に活かすことに努めている。</p> <p>★ 引き続き、子どもたち一人一人に適切な関わりを行い、育ちを支えることができるように、園全体で連携をとりながら保育を進めたい。</p>	行事などを通して、職員が連携をとり、全体で取り組んでいるのが分かった。Aでよいと思う。

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

アンケートなどをもとに適切に評価されている。取り組まれていることは、自信をもって評価してよいと思う。

6 総合的な学校関係者評価

行事等で子どもの様子を見るたびに、子どもたちの成長が感じられた。今後も職員で連携をとり、同じ方向で保育を進めていってほしい。先生たちも保育を楽しんでほしい。